

かながわ さとおや

第121号

2024 年 3 月発行

発行 神奈川県里親会

藤沢市みその台 1-3

聖園子供の家 気付

<http://kanagawa-satooya.jp>

印刷 アサヒ企画
大井町金子 910



掲載記事

- ・ バルーンアート教室
- ・ フォスターリングチェンジ・プログラムの導入に向けた取組について
- ・ フォスターリングチェンジ・プログラム説明&体験会
- ・ 各地区里親会活動報告
- ・ ちょっとひと休み♪おすすめ映画！
- ・ 表彰関係
- ・ 編集後記

バルーンアート教室

【日時】8月27日（日曜日） 10時～12時

【場所】小田原市川東タウンセンターマロニエ

【参加者】35名

講師 ベンジャミンさん

県西地区を中心に、幼稚園、児童養護施設、市町のイベント会場等において、バルーンアートパフォーマンスを行っています。ベンジャミンさんの作品は新聞の記事になるほど独創的ですが素晴らしいものばかりで、見ている人たちを幸せにしてくれます。



バルーンアートパフォーマーのベンジャミンさんを講師にお迎えして、子どもたちの学校や幼稚園の夏休みが終わるころ、バルーンアート教室を開催しました。

ベンジャミンさんの挨拶のあと、早速作品を次々に目の前で作って見せてくれて、集まったたくさん子どもたちにプレゼントしてくれました。

子どもたちばかりではなく、大人たちまでもが目を輝かせていました。作品が仕上がるたび歓声がわきました。1本のひものような風船を膨らませ、何本も重ねて形を変化させ、さまざまな動物、花、キャラクターなどを作ります。それは、想像をはるかに超えて、すごいとしか言葉ではいい表せないような作品でした。

後半は、ベンジャミンさんに教えてもらいながら自分たちで作品作りに挑戦しました。ふうせんを膨らませて、ねじって、時々パン！と割れることもあります、それも楽しい。剣とプードルを作りました。

一生懸命作る子どもたち。上手に作れない子どものためにがんばる大人たち。そこには笑顔が絶えません。割れたらどうしようと思いつつ作ることもまた楽しいのでしょう。

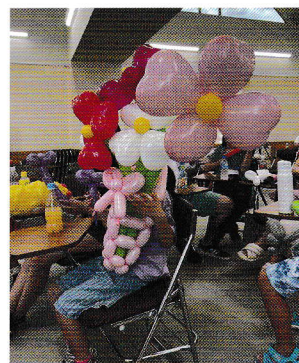
「ふうせんは割れるものだからね。たくさんふうせんを持ってきたから気にせず作ってくださいね。」と講師のベンジャミンさんの声掛けに、参加者は頑張りました。

「なんだかとても怖そうですが？」と顔をこわらばせながらふうせんを持つ大人の方に問いかけました。

「ふうせんはきれいなんですよ。」と答えながら懸命に作っていました。その横で「頑張れお父さん」と見ている子どもがいて、親子の仲の良さが伝わってきました。

バルーンアートは見ることはできますが、作り方を教えてもらうことはあまり経験がないかと思います。今回は自分で作るというイベントが楽しい思い出になったのではないのでしょうか。

たくさんの作品がお土産になりました。



フォスタリングチェンジ・プログラムの導入に向けた取組について



神奈川県里親会の皆様におかれましては、日頃から社会的養護を必要とするこどもや家庭を支えていただきありがとうございます。

さて、令和5年4月にこども家庭庁が創設され、こども基本法が施行されました。同年12月にはこども大綱が閣議決定され、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、こども施策に関する基本的な方針として、6本の柱が掲げられました。その1つに、良好な成育環境を確保し、全てのこども・若者が幸せな状態で成長できるようにすることが示されました。具体的な取組として、保護者による虐待等により、家庭での養育が困難な場合等においては、永続的解決を目指して、養育環境の改善や家庭復帰を支援し、親族等による養育や特別養子縁組の支援に取組みながら、「家庭における養育環境と同様の養育環境」である里親等、「できる限り良好な家庭的環境」の施設において安定的、継続的な養育を提供すると明記されており、社会的養育を支える重要な存在として、里親は位置づけられています。

本県では、令和2年3月に、令和2年度から令和11年度までを計画期間とする「神奈川県社会的養育推進計画」を策定し、主な取組の1つに家庭と同様の環境における養育の推進を掲げ、「里親等への委託推進」に取り組んでまいりました。主に、里親センターひこばえや家庭養育支援センター、児童相談所が連携し、フォスタリング業務（里親のリクルート及びアセスメント、登録前後及び委託後の研修、こどもとのマッチング、里親養育への支援に至るまでの一貫した里親養育支援）に取り組むことで包括的な実施体制の構築を図りました。なお、フォスタリング体制について、国は1か所で行うことを示していますが、本県においては、これまで施設と児童相談所が協力して里親委託推進に取り組んできた経過から、3機関体制をとっています。また、里親委託を推進できるよう、里親や里親相談員、里親会、施設の里親支援専門相談員等の協力を得ながら取組を進めているところです。

こうした中、国からは、令和3年に、令和6年度末までの期間を里親委託推進の「集中取組期間」として位置づけ、意欲的に取り組む都道府県等に対して、補助率の嵩上げ等の財政支援を行うこととする「里親委託・施設地域分散化等加速化プランの実施方針」が示されました。本県の里親委託加速化プランについては、国の採択を受け、令和3年度から財政支援が行われています。その予算を活用して、より一層の支援体制の強化を図ることを目的に、里親センターひこばえ、家庭養育支援センターの里親養育支援にかかる能力やスキル向上のため、研修受講の取組を始めました。その研修とは、英国で開発されたアタッチメント理論や社会的学習理論等に基づき、ペアレントトレーニングの手法も取り入れた「フォスタリングチェンジ・プログラム（以下「FCP」という。）」という「里親向け養育支援プログラム」です。これまで里親登録前・更新時の法定研修、本県独自の里親登録認定後の施設実習、里親会やフォスタリング機関による研修等がありましたが、FCPは、こどものさまざまな行動への理解と対応方法について、体験を通じて具体的かつ体系的に学ぶことができる内容となっており、新たに本県での導入を検討してまいりました。FCPの概要については、里親センターひこばえの掲載記事を御参照ください。

実施に向けて、令和3年度及び令和4年度にフォスタリング機関職員5名にFCPの養成講座を受講してもらいました。令和5年度には、フォスタリング機関職員、里親向けにそれぞれ体験会を実施し、これまでの研修では、あまりクローズアップされてこなかった「里親が大事にされている感覚」も味わうことができました。令和6年度から里親を対象としたFCP研修の開催を準備しています。全12回の研修で受講者数に限りがあり、受講者の負担もありますが、里親自身が受講してよかったと思えるような実践的なプログラムとなっているため、非常に実りのある研修になると期待しています。

里親養育はもちろん子育てはチーム養育であると考えています。チームには、お互いをよく知り、理解し、支え合うことが大切です。こども、里親、支援者たちがそのための一歩を踏み出す機会として、本研修が継続的に実施できるようになれば幸いです。また、令和6年4月施行の改正児童福祉法により、里親支援センターが包括的なフォスタリング業務を担う児童福祉施設として位置づけられます。里親支援センターの設置を含む今後のフォスタリング体制については、令和7年度の神奈川県社会的養育推進計画の改定と併せて検討していく予定です。計画改定にあたっては、里親会の皆様からも御意見や御助言をいただく機会を設けさせていただきたく存じます。今後とも児童福祉施策の推進に向けて御協力の程よろしくお願いいたします。

神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部子ども家庭課児童養護グループ 永江 宏嘉



育ての親と子どもの関係を良くし
子どもの問題行動に対応できるようになる

フォスタリングチェンジ・プログラム

説明 & 体験会のご報告



9月15日に本研修会を実施しました。当日は21名の里親の皆さんが参加されました。

場所は藤沢商工会館ミナパーク。窓から差し込む日差しが温かく感じる中でのスタートです。

実際のフォスタリングチェンジ・プログラム（以下FCP）を少しでも体験して頂ければと思い、まずは本番さながらのお出迎え。定刻になっていよいよFCP説明&体験会スタートです。

ロールプレイが終わったところで、途中、ちょっとお茶休憩。あちらこちらから談笑の声が聴こえてきました。一息つき後半戦です。グループワークを行い、最後はリラックスタイム。

参加者もファシリテーターもみんな、今日の自分の頑張りを褒めたところでフォスタリングチェンジ・プログラム説明&体験会の終了となりました。

事前の打ち合わせでは、皆さんに少しでもFCPの良さが伝わるようにするにはどのような内容が良いのか。12セッションある中で、ファシリテーターが話し合いを重ねました。

そして今回の研修会は主催側としても色々学ぶことが多いものとなりました。

里親の皆さんから「自分は全然できていなかった」「良いおかあさんではなかった」というご感想が伺えましたが、日々の養育の中で子どもに向き合い、気持ちを受け止めながら子どもたちの関係を築かれてきた上で今があると思います。今までの養育が間違っているわけでは決してありません。

FCPは子どもとより良い関係を築く方法のひとつです。ファシリテーターとして、このFCPが参加された里親の皆さまに、プラスのメッセージとして伝えられるように、おこなっていきたいと思います。

参加して下さいた皆さま、ありがとうございました。

来年度から開催予定のフォスタリングチェンジ・プログラムで
皆さまにお会いできることをファシリテーター一同、楽しみにしています。



フォスタリングチェンジ・プログラム（FCP）とは？

里親委託率が70%を超えている英国において、1999年に始められた「里親・養親支援のプログラム」です。

このプログラムは、社会的学習理論やアタッチメント理論を基にしており、育ての親が子どもとより良い関係を築き、子どもの“問題行動”に対応するための具体的な方法を、約3カ月（週に1回3時間、計12回）かけて学びます。

対象となるのは、原則として2、3歳～12歳までの子どもを育てている養育者（育ての親）です。

フォスタリングチェンジ・プログラムは2016年日本に導入され、全国各地で実施が始まっています。

神奈川県では、令和6年度から実施に向けて準備中です。



ファシリテーターとは？

参加者のコミュニケーションを促し、考えをまとめる立場の人たちです。

このプログラムにおいては、「フォスタリングチェンジ・プログラムファシリテーター養成講座」の受講が修了している以下5名が担っています。

（白十字会林間学校） 石井 千代子 / （ゆりかご園） 安立 七恵

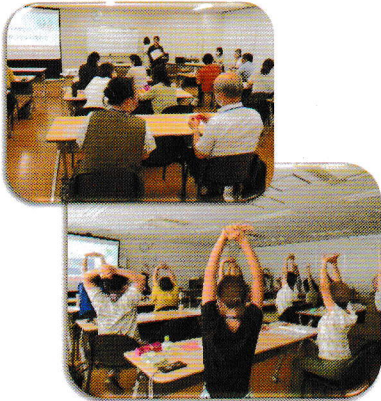
（鎌倉児童ホーム） 宮崎 千鶴子 / （唐池学園） 川本 由美子

（里親センターひこばえ） 石井 千佳子

自分自身のケアについて

プログラム最終日、リラクゼーションエクササイズを行います。その中には、筋肉のリラクゼーション、深い呼吸、視覚化が含まれています。

他人の面倒を見るということは、ストレスがたまり、時に激しく自分を消耗させることがあります。そしてそんな中で、リラックスしたり、息抜きしたりすることが難しい時もあります。そんなとき、身体のコリを見つけ、それをほぐすリラクゼーションの技法を身につけることができればとても役立ちます。



～ 参加者の声より ～

- ・大変貴重な体験ができました。子どもに変化を求めるなら、自分も変化しなければいけないと実感しました。
- ・分かっているけれど・・・ということばかりの子育てだと思います。時々振り返りの時間必要だと思います。そのためには良いプログラムと感じます。
- ・里父にも参加してほしいと思いました。(日程や本人の意思として難しいかな・・・)
- ・自分の精神状態を理解して、またはリラックスさせる時間を少しでももって、過ごすことが大事だと痛感。最後に深呼吸をして、抱きしめるのをに入れてくれたこと、大事と思いました。

体験会に参加した方の感想

今回提供された体験会プログラムは、実際には12セッションある中のほんの一部を、2時間弱で体験する機会でしたので、感想が書けるほど体験したとは言えません。そこで、これまで考えていたことも含めて感じたことを書きたいと思います。

当日は、参加者が2人ずつに分かれて親役や子ども役をやって、ロールプレーのような形でいくつか状況設定を変えながらセッションが進められました。この部分を体験して二つのことを感じました。ひとつは、子どもの扱いが難しい場面でも、里親がこうした訓練を何度か繰り返し体験しておくことで、災害時の避難訓練のように、その状況に對して的確な対応がとれるようになるということです。次に、FCPはさらにその先にある、里親が生活の中で、自身でPDCAサイクル(注1)を回し、自己解決できる力を養うことを目指しているようにも思いました。

FCPは、英国のモーズリー病院の専門家チームが大学と協力して開発したものと紹介されています。訓練ニーズを定義するための分析から、最終的に開発された訓練コースの妥当性確認や検証をするという英国流のやり方を考えると、FCPが半年程度で完成したものでないことは想像に難くありません。このように丁寧に系統立てられた研修プログラムはこれまでの日本にはなかったと思います。

私は以前から今の里親研修制度では、里子の養育はそれぞれの里親の能力と経験に頼ることになり、自分の体験からも、そこに子どもにとってのリスクがあるように思っていました。児童相談所と里親の阿吽の呼吸や、里親の人間力でそこをカバーするような考え方もあるのかも知れませんが、それは大きなリスクのように思っていました。神奈川県でも令和6年度からFCPが導入予定であるとの説明がありました。福岡のように先行している自治体も含めて、こうした研修が導入されることで、里親全体の養育力や子どもの問題行動への対応力がアップし、それが、里子にとって良い養育環境へとつながっていくと信じます。

FCPの訓練目的は里親の力をアップすることかも知れませんが、その最終目標は里親への訓練成果が子どもの養育環境の改善へとつながることだと思います。研修を受けた一人ひとりの里親が、より自信を持てるようにすることはとても大切だと思いますが、同時に神奈川県全体としてもFCPの導入がどのような効果を生んだのか、少し長いスパンで検証がなされるべきかも知れませんが、FCP導入時点で、効果測定をする幾つかの指標を定めておき、その数字がどのように変化したのか、習熟度だけでなく、例えば子どもの愛着度や、場合によって里親委託での不調率がどう改善したかなども指標になるかも知れませんが、こうした検証の結果によって自治体全体の養育力に関するPDCAサイクルが回っていくのではないのでしょうか。

大川 哲司

注1 PDCAサイクルとは、Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の4つのプロセスを繰り返すサイクル。

日々、子どもの問題行動に苦労している養育者の方々はたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。私を含めそんな皆様を導くヒントになるプログラムかなと思い、この度体験会に参加しました。

12ある内の2つのセッションの体験で、一つ目の『効果的な注目』では、子どもは大人に興味を持ってもらいたくて、負の注目であれ全く相手にされないよりまし、と学習している。里親の役割は、「子どもの適切で肯定的な注目に焦点を合わせ、不適切な行動への注目は減らすこと」というのを学びました。

2つ目の『子どもが自分で感情をコントロールするためのコミュニケーションスキル』では、問題行動の原因をグループで話し合いました。自分の感情や表現の言葉がわからない子どもがいる。感情を受け入れてもらえない子どもは感情を内在化したり不適切な行動で示す。里親の役割は、「行動を言語化し、感情を共有するスキルを身に付け、子どもの感情コントロールを助けること」という学びでした。

言われてみれば、我が家でせざるを得なくしている日々の対応と、今回の内容が繋がっている気がしました。あの手この手で苦労した結果、自分も楽で子どもにも伝わるので実行している対応です。人を傷つけたり危険が伴う場合の例外もありますが、注目が目的の不適切な行動はじっと我慢でスルーし、適切な行動が出た時にすかさず注目し褒めて、君はできる男だねという暗示を込めています。暴言は、注意しても更に増えるので「なるほどそう言いたい気持ちなんだね」と言う方が落ち着く事が多いです。

しかし、社会の目もあり嫌がなっていない？甘すぎる？と手探りでもありましたので、この体験会を通して認識が深められ不安が薄れたかな、というのが今回の私の感想と収穫でした。

子どもの個性によって対応の正解は違うとは思いますが、FCPが、養育者が少しでも前向きに子育てができるような道しるべになれば良いなと思いました。

塩谷 名帆子

2023年度地区里親会活動報告

湘南・大和里親会

11月3日は恒例となった屋外ハロウィンパーティーを開催しました。素晴らしい天気の下、里親子、児童相談所職員や児童施設職員の方を含めて61名が色々な仮装をして県立相模三川公園に集まりました。大和綾瀬地域児童相談所で育ったと思われる巨大なかぼちゃ、美容整形外科医の身分を偽って児童相談所勤務をしている中央児童相談所職員。いつも登場してくれるマリオ、ミニオン、魔女、などなど。衣服に鮮血が飛び散っている危険な母子もいました。そういえば、優しそうな恐竜も来てくれていました。オリエンテーリングをやりながらのおやつハントなど楽しい一時を過ごすことができました。



12月2日は楽しいレクリエーションとは打って変わって、「難しさを抱える子どもとの生活」をテーマに里親サロンを開催しました。21名が参加して日頃のご苦労を分かち合い、日常での工夫などお互いに学び合うことができました。中にはとても厳しい状況のお話しもあるなど時間が足りないくらいでしたが、里子を愛し続ける思いを共有できてとても幸せな一時でした。当日は、大和綾瀬地域児童相談所の妹尾所長にもコメンテーターとして参加していただき、里親の苦労話に耳を傾けていただきました。

鎌倉三浦地域里親会

年度初め5月恒例の親子で40畳ほどの広い畳敷きの部屋で子どもたちは自由にお遊び、大人はお話交流する「はじめましてサロン」。6月は大人だけの「おしゃべりランチサロン」、11月は秋と思えない温かさの中「みかん狩り」。みかん園貸し切りで子どもたちは山々を駆け回り楽しみました。

毎年一番参加の多い12月「クリスマス会」では26名参加。児童相談所・家庭養育支援センター職員扮するサンタ、トナカイや巨大なクリスマスツリー登場に子どもたちは大喜びでした。「サンタは煙突のない部屋に帰ったよ、ニセモノだよ！」子どもの感受性に大人たちも笑顔。

1月は初めて「DVD映画鑑賞～勉強会」を開催しました。母に拒絶され過ごした過去、大人になってから母と向き合おうとした実話を映画化した『母さんがどんなに僕を嫌いでも』を鑑賞し意見交換をしました。

西湘なでしこ会

児童養護施設の子どもたちとのミニ運動会や一泊研修、年3回のサロンでの気軽なおしゃべり会など、今年度はいろいろなイベントが開催できました。会員も増えたこともあって、どのイベントも参加者が多く、盛んに楽しくできました。

一泊研修では、テーマ別の体験談を3名の方に話していただき、そのあとグループ討議を行いました。皆熱心に体験談に耳を傾け、その後それぞれの思いなどを語り合いました。研修会場の児童養護施設城山学園から場所を移して、宿泊先の湯河原のホテルで懇親会を行いました。懇親会后ピンゴゲーム大会で大盛り上がりでした。

今年度は初めての企画もありました。「しいたけ狩りとこんにゃく作り」を11月12日小田原市にある「お山のたいしょう」で行いました。原木しいたけは小さな子どもでも手の届く高さで育っているのも子どもたちも手にしやすく興味津々。子どもたちには食育になったでしょうか？ たくさん作ったこんにゃくは味シミがよく、おでんには最高でした。もちろんお刺身もおいしかったです。

また数年ぶりに忘年会も行いました。児童相談所職員の方や児童養護施設職員の方にも参加していただき、楽しいひと時をすごすことができました。



あおぞら里親会

10月15日 あおぞら里親会初企画のレクリエーション、日帰りバス旅行「ぶどう狩り&溶岩パーベキュー」に行ってきました。山梨県笛吹市（御坂農園グレープハウス）でのぶどう狩りと、桔梗信玄餅工場テーマパークの見学をして、里の駅いちのみやでの買い物もあり、盛りだくさんの行程でした。午前中は雨に降られてしまいましたが、思いっきりにぎやかにぶどう狩りを楽しむことができました。33名の参加でした。

12月2日は子ども自立生活支援センター「きらり」の体育館で、クリスマス会を開催しました。平塚弦楽アンサンブル「アンサンブル音づくり」によるコンサート、そのあとの楽器に触れてみようという体験企画。親子そろって楽しむことができました。

会員の皆さんが参加しやすいあおぞらサロンになるように、5月は土曜日開催の「おけまるさんと遊ぼう」、9月は「体験談&あおぞらカフェ」、11月は会員の方が講師になっての「クリスマスリース作り」とアイディアを出し合って開催しました。



県央里親会～すこやかのかい～

COVID-19による自粛生活から解放されて、県央すこやかのかいでは里子&里親間の交流の場として、例年の恒例行事を再開しています。

その中で今回は厚木マルベリーライオンズクラブ殿（以下；マルベリーさん）によるボウリング大会が、2023年10月1日に実施されましたので、ご紹介させていただきます。

本大会は、2015年から毎年開催（2020年～2022年の間は休催）されている行事で、マルベリーさんからのご招待イベントとなっています。本年度は、里親会から子ども18人／大人13人の計31人が参加しました。ゲーム方式はチーム戦で、マルベリーさんと里親会メンバーが一緒のチームとなって、2ゲームの合計スコアで順位を決める内容となっています。各チームに参加者が入り乱れることで、単にボウリングを楽しむだけではなく、お互いが交流しやすい環境にもなっています。

子どもの中には、初めてボウリングをする子もいて、ボウリングすべり台を使った遊び方や、バンパーレーン（ガターに落ちないガード）を使って、初めてでも楽しめる工夫が盛り込まれた大会となっていました。また自分の投球ではない時間を使って、他のレーンの人たちと会話をして、子どもたちの成長を確認しあったり、悩みごとの相談をしたり、里親会ならではの交流の場にもなっていました。

最後の表彰式では、入賞者への景品のみならず、すべての里子たちにお菓子などのプレゼントも用意され、最後まで楽しめるイベントとなっていました。





おすすめ映画！



【黄昏 (On Golden Pond)】

老夫婦の愛。老いとの葛藤。失われていた娘との関係の回復。輝く湖面に響く水鳥アビの鳴き声。湖を取り囲む美しい風景。忘れられない印象的な映画。アカデミー主演男優・女優&脚本賞受賞作。

【ミスター・アーサー】

ダドリー・ムーアとライザ・ミネリのコメディ。大富豪の御曹司がお金では買えないものがあることを知る。映画の中で流れる「ニューヨーク・シティ・セレナーデ」がいい。

【Second Best】

心に傷を抱えた少年を田舎の独身の郵便局員が養子に迎える話。観ていて養父、里親としての覚悟が問われる作品。

【ジョーズ】

若い頃、映画館で初めて拍手が起きた映画でした。



【ベン・ハー】

キリスト教の信仰に基づく壮大なスケールの映画。小学生の心に焼き付いた。

【サウンドオブミュージック】

ジュリー・アンドリュースの美しい歌声のみならず、子どもたちの歌もかわいい。

【リメンバーミー】

大人も子どもも楽しめます！！家族を想う気持ちと、祖先を偲ぶ大切さに感動します。子役の男の子の歌声も素晴らしいです！！

【ステキな金縛り】

三谷監督の傑作コメディをお勧めします。心暖まるシーンもあります。是非御覧になって下さい。

【キングダム】

壮大な舞台とアクション、何と言っても吉沢亮と山崎賢人がいい。何度でも観れる。

【メアリー・ポピンズ】

魔法は楽しい。絵の世界や、現実の世界に自由に往復できる。

【きっと、うまくいく (3 Idiots) 2010】

ちょうど10年前の映画ですが、インドのみならず世界中の問題をコミカルに、多様な物事の捉え方のヒントをくれる様な映画です。映画のタイトルの“きっと、うまくいく”(All is Well)は、里親の心積りのようにも感じます。

表彰関係

全国里親会会長表彰

高山 完治・慶子夫妻(湘南・大和里親会)

本多 洋実・一重夫妻(西湘なでしこ会)

関東甲信越静里親協議会会長表彰

西本 昌嗣・真弓夫妻(西湘なでしこ会)

穴戸 毅八郎・晴子夫妻(県央里親会)

神奈川県里親会会長表彰

藤田 けんじろう・弘美夫妻(湘南・大和)

鈴田 勝徳・澄子夫妻(湘南・大和)

田中 智行・なつみ夫妻(鎌倉三浦地域里親会)

野中 康雄・麗子夫妻(あおぞら里親会)

今井 昌樹・晴子夫妻(県央里親会)

編集後記

広報作りには様々な制約がありますが、それらに注意しながら編集委員会では編集委員が意見を出し合ってテーマを決め、原稿や情報を集めたり、各地区里親会の活動も報告としてまとめています。そして、前号より大井町にあるフォトスタジオアサヒさんに作成をお願いしています。この広報誌が会員の皆さんの里親活動にお役に立てるよう今後もお届けできればと心から願っています。ご拝読ありがとうございます。(西)